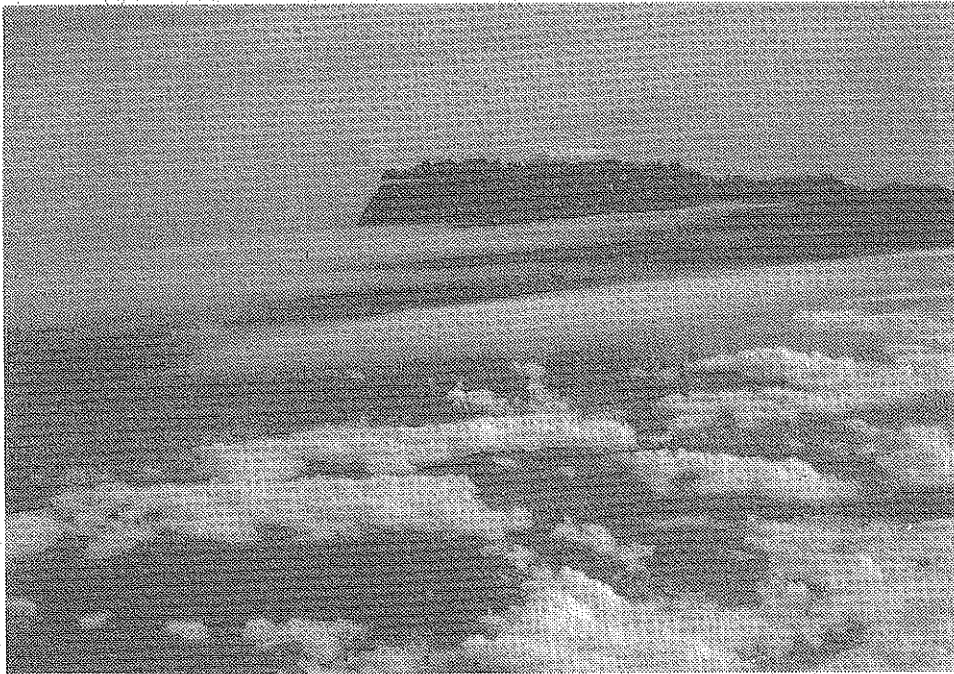


Save The Tropical Forests



森の通信

2009.1.20

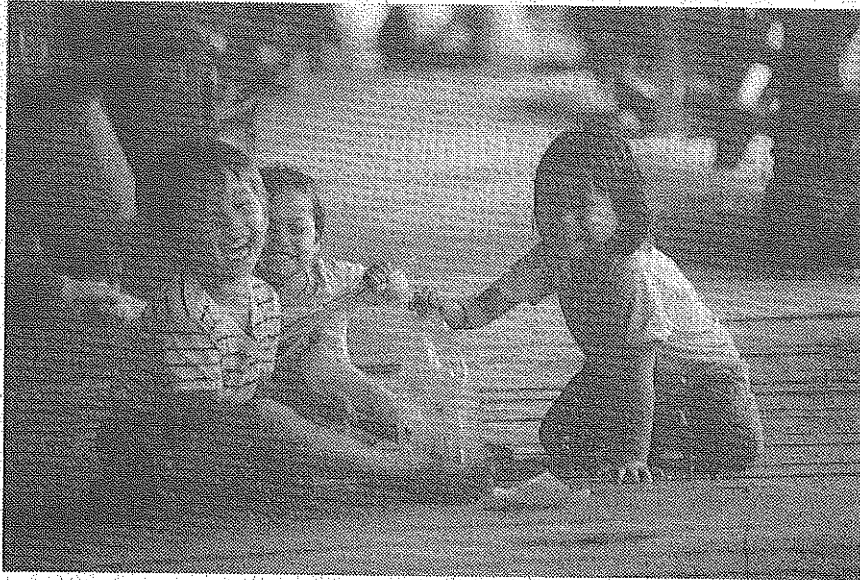


▲ ホルネオ島最高峰 キナバル山頂 (サバ州)

CONTENTS

- People ② ..... 4P
- ウータン20周年から 寄稿 ..... 5P
- インドネシアからの違法材を追う③ ..... 7P
- 「ミソ・新たな1世紀の幕開け」佐々岡香子 ..... 10P
- 世界の森林ニュース ..... 13P

2009 NEW YEAR



▲ ガラワ州の子どもたち。(峠隆一 photo)

### 【ウータン活動報告】2008年

2008・9・30 通信「ウータン89号」発行

9・30 【ウリン材保護キャンペーン】に約150社へ停止依頼

10・4 大阪YWCAで『サラワクの森林破壊と先住民の闘い』講演\*西岡

10・11 大阪YWCAで『違法材停止とインドネシア』講演\*西岡

10・18 インドネシア・タンジュンプティン公園へ植林準備ツアー報告会、報告\*BTC中西氏等

10・28 未回答企業多く【ウリン材保護キャンペーン】に約200社へ停止依頼

11・6-8 ITTO(国際熱帯木材機関)理事会参加、2008・11年までのITTO行動計画決定  
参加\*西岡

11・11 【ウリン材保護キャンペーン】に約20社回答、M物産等回答で停止50社超える。

11・15 20周年イベント【違法材停止に向けて】講演、報告等

12・16 [ウータン2009年に向けて方針]等 会議

＊ ＊ 20 周年から ＊ ＊ —2009年「ウータン90号」

事務局長・西岡良夫

20周年イベントを行った中で、11月15日には、遠方から来ていただき弁護士大西裕子さん、滋賀県で嘉田知事を当選へ仕掛けた寺川さん、元「熱帯林きょうと」の南さん、有難うございました。

ところが講師の1人の猪俣栄一さんは突然のご病気で、我々は師匠の「猪俣節」を聞けず残念。ピンチで阪大・神前先生に『サラワク森林問題と違法材』というテーマで、講演を依頼。神前先生は講演に加え、サラワクの料理も持参。美味、有り難うございます。FoEJapanの三柴純一さんによる『合法材使用へ』の判りやすい講演、有難う。その後、西岡がこの20年のウータンの活動を紹介。

最近の若い仲間の知らないテーマ:①90年から97年まで『熱帯材使用削減キャンペーン』が全国NGOsで300自治体が熱帯材使用削減したことや、②その後ウータンの取組みで96年から『熱帯材不使用選挙板キャンペーン』を展開し、全国40万人居住の都市の選挙板が2005年に95%も再生材に変化の取組み、③その間に招聘のブルーノ・マンサ氏、先住民アンディ・ムタン氏、バル・ピアン弁護士の他講演も紹介。④99年からウータンが『違法材停止問題』への関わりを報告。

最後にウータンのメンバーに今の気持ちを発言してもらった。ご参加ありがとう。会場提供の「ばんまいさん」、この店の椅子・机を製作し、「ウータン90号」まで長年編集の永田さんらに感謝です。

ウータンでは、2008年にもいろいろな目標・課題を立てたが、メンバーの仕事などや現地の天候等の条件で、あまり上手く進まなかった。余りにもこれまでが上手く行過ぎたと思う。目標を立てるがはかどらぬ時は、「もう一度振り返れ」ということだろう。2009年は、3-4年の目標・課題と5-10年の長期目標も検討したいものだ。事務局が世代交代へと出来るように、、、。

購読いただいている皆様、行事に参加の皆様、本年も宜しく申し上げます。 2009年元旦



▲ 草とたわみれる西岡良夫事務局長です。

\*\*\*ウータン 20周年記念後\*\*\*

## People save! the World's Forests

＝ITTO も様変わり、2002年「違法材停止」へ、2006年から進める原動力＝  
ITTO(国際熱帯木材機関)事務局長・Ze Meka(ゼ・メッカ)氏



(2008年11月7日・第44回ITTO会議、中央・Ze Meka氏、両端は各政府メンバー)

2007年バリ会議で06年就任の Ze Meka(ゼ・メッカ)新事務局長と少し話す。気さくだ。ITTO(国際熱帯木材機関)は、2002年から違法材停止や生物多様性の保全、温暖化防止への森林保全、火災、再植林、森林破壊の停止等が決議され様変わり。2008年、44回ITTO理事会中に次回開催国が決まらず混乱も、笑顔を絶やさない新事務局長。趣味を聞けば、「読書、テレビ鑑賞、散歩や森歩き、家族との団欒だ」と。家族は5名で母国カメルーンに住み、横浜は単身赴任だそうだ。「激務のITTO理事会後、仕事を終え、僅かの休暇を母国で過ごせるのが嬉しい」とゼ・メッカ事務局長。

今回会議で突如「アンフェア」と発言したフリーザイラー初代ITTO事務局長と異なり、ゼ・メッカ氏は楽しい事務局長だ。さらに違法材問題に取組み、世界の持続可能な森林経営にむけ期待したい！ ITTOも学術より保全、予防への行動だ。45回理事会は横浜。

(photo&文・西岡良夫)



\*\*\*「ウータン・森と生活を考える会」20周年から\*\*\*



## 「継続は力なり」を肝に銘じて

春日直樹

20年の間に森林を取り巻く環境は複雑な様相を示しています。ラワン材を大量輸入して、ラワン材を使い捨てている日本は、熱帯林の大量輸入国であり、「世界一の木食い虫日本」と世界中から非難されていた。当時、木材輸出国(マレーシア・インドネシア・フィリピン)の森林減少に伴う環境悪化、サラワク原住民の生活環境の破壊など多方面に亘る影響を指摘し、活動を開始した「ウータン・森と生活を考える会」を知って会員になった。

地球温暖化防止京都会議に参加し京都市内をデモ行進したこともあった。熱帯林の破壊が森の生活にどうなのか。どの様にして木材が日本に輸入されているのか。子ども達に知ってもらうために小中学校用の教材を作った。[ラミン調査会]を立ち上げ、違法伐採され日本で製品として使用されているラミン材の使用停止などの取り組みをした、など思い出す。

地球の温暖化に伴う二酸化炭素の排出量削減、さらに環境保全、生物多様性、野生生物の生活環境維持など森林の公益的機能が重視されるようになった。従来の経済効率一辺倒の社会から、地球の未来を見つめた具体的な行動を必要とする社会に変わりつつある。森林の維持管理も含めて今後の活動が大切である。

「継続は力なり」を肝に銘じて今後も活動して行きましょう。

\*\*\*\* \*\*\*\* \*\*\*\*\* ■ □ ■ \*\*\*\*\* \*\*\*\*

## 出会いに感謝

ラミン調査会 奥村知亜子

19年前、この会に関わりました。国境や国籍を越えた出会いを大切にすることは平和を創り出す営みでもともと、10年ほどいろいろな国際交流・民際交流・指紋押捺拒否運動などに関わっていた頃でした。1987年、フィリピン女性の支援活動をしていたシンガポールの友人が政治犯で逮捕された年に、マレーシアでも政治犯で多くの平和活動者等が逮捕された中に、熱帯雨林保護活動者がいました。政治犯救援を契機にウータンに出会い熱帯林活動を始めました。自分たちの暮らしの足元が熱帯林の破壊によって支えられている仕組みを変容しようと活動してきました。自分の家の暮らしを変容するという足元の課題にもがきつつ、家具の調査部会・教育スライド部会・[ラミン調査会]を立ち上げ、10人もの素晴らしい調査仲間を得てラミンの使用を停止してもらうための方法を選び出し、多くの方々に賛同して動いてもらえるためのシンプルな行動へのメッセージを考えました。

人に呼びかけるとは言霊を動かして人とつながる営みです。小さな「善」を積み重ねることが出来る言葉を紡ぎ出せば、宇宙ともつながり大いなる力の助けを得ることもできます。言葉は全てです。そして、その前の「念」から愛に満ちた善なるものにしていく日々の暮らしを行ってまいります。

\* \* \* 20周年を超えて \* \* 2009年

## ウータンとの関わり

石崎雄一郎

ウータンとの初めての出会いはとあるシンポジウムの分科会でトップバッターとして講演してくれた西岡さんのお話を聞いた時でした。NGOの活動をもっと知りたいと思っていた僕にとっては衝撃の内容でした。違法伐採の現場へ行き、調査をして写真を撮り、企業へアプローチをしに行く。「NGOはこんな活動をしてるのかあ」と斬新な想いで聞いたものです。しかし、その後数々の他のNGOと関わりを持つようになり、実は西岡さん率いるウータンがユニークで他にはない活動をしていたことを知るようになります。

結局その時は2番目に話をしてくれたAVC(アジアボランティアセンター)の荒川さんに紹介されたBCT(ボルネオ保全トラスト)へ積極的に関わることとなりました。僕自身が大学の頃に属していたボランティアサークルは、途上国の貧しい人に家をつくるというもので、僕自身もフィリピンに4度訪れています。地域に密着し住民との交流をメインとするAVCや現地ツアーを行うBCTへ初め興味を持つこととなりました。しかし、その後ボルネオの熱帯雨林の保護という活動から、ウータンの活動へも参加するようになったのは必然だったのかもしれませんが。

どうしても日本ではまだNGOの活動は限定的で国連機関や外務省の活動に比べ規模が小さくなりがちです。しかし、ウータンの必ずしも多くない人数でそれぞれの個性をいかし、熱帯材キャンペーンや違法伐採停止キャンペーンを実行する姿には、非常にパワーを感じます。NGOの可能性を考える上でもウータンは魅力を持った組織といえます。

先日、関西NGO協議会の方とお話する機会がありましたが、ウータンのような実際的な活動をしていて、行政の熱帯材使用禁止などの結果を出しているNGOはつつい優先して紹介してしまいたくなる、というようなことをおっしゃってありました。まさに、何をするかという観点においてウータンは20年もの長い活動を続けているわけで感嘆に値するものであります。

これまでの20年間での活動を継続しつつ新たな道を模索するお手伝いができればと思います。自分自身いろいろと勉強している最中で興味をもっと広げていきたいと思っています。特に現地へ行き、実りのある活動をしたいと思っています。

今後も西岡さんのように現地へ何度も訪れている方と現地へ行ったり、様々な専門分野をお持ちの方と今後交流できる機会が持てることを願っております。

## インドネシアからの違法材

### を追う③—インドネシア政府の頑張り

西岡良夫

「違法伐採と密輸の主はマレーシアと中国。インドネシアの西カリマンタンからサラワク州国境を通し、違法材が運ばれている」と、2004年インドネシア・コマーシャル・ニュースが報じた。それ以降も状況が変わらず、「西カリマンタンからサラワク州へ百台余りのマレーシアのトラックで、木材を1日千㎡以上も違法な運搬をしている」とコンパス新聞も伝えている。これらは既にITTO(国際熱帯木材機関)の情報としても流されていた。

2005年からインドネシアで違法伐採、密輸の状況に劇的な変化があった。(※)

ユドヨノ大統領は、新軍司令官や林業大臣相談役に新たな人物を任命。1人は私たちの友人のフォレスト・ウオッチ・インドネシア事務局長のトグ・マヌルン氏を大臣相談役に登用したのだ。同年からインドネシアでは、各地で違法材の摘発が始まった。トグ氏が言う。

「違法伐採者に断固たる処置を取らねばならない。なぜなら2004年もインドネシアでは1.2—1.4百万ha(WALHIは2.8百万ha)森林破壊されており、その主因が違法伐採だから。

我々の闘いは長いものになるだろう。現在も違法伐採・違法取引が続いており、インドネシア国に不当な巨大の損失を与えている者や企業の責任者には逮捕を含めた処罰が必要だ。

(※)2005年(月)3日、ユドヨノ大統領は「違法材撲滅宣言」発す!

(写真)西カリマンタンで違法材を運ぶ



インドネシア材はマレーシア、シンガポールに密輸されアジア各国、EU、米国等に輸出されている。この密輸によりインドネシア政府は、税金で年2億ドル以上の損失を受けている。

インドネシアの人々の生活の向上と環境保全が必要であるのに、一握りの者や企業が巨万の富を得つづけている。この構造を変えねば、インドネシアの生活は壊滅する」と。2005年9月のアジア森林パートナーシップ会議間に話してくれた。

2005年春、今までラミンの違法伐採で有名になった、オランウータンの生息で有名なタンジュン・プティン国立公園で大半の違法伐採が停止した。地元NGOのフレンズ・オブ・ナショナルパークス・ファンデーション(FNPF)は、

「2005年から警察も違法伐採の取組みとして動き出し、パトロールしだして違法伐採が停止に向かいだした。村の中にも違法伐採に少し参加した者もいたが、止めるよう説き伏せた。私たちもファンドを貰い、生計を維持出来るように働きかけると。変わってくれた。セコニア河口に住む元漁師たちの多くが、タンジュン・プティン国立公園で違法伐採に従事していた。

違法伐採停止し今は元の漁師をしている」と。

このタンジュン・プティン国立公園だけでなく、マラス国立公園、セバンガウ国立公園の一部でも2006年より違法伐採が停止した。これは、インドネシア政府や各NGOsの努力だけでなく、2006年よりEU環境大臣クラスの高官が、インドネシア国立公園での視察を要望したいという側面もあった。違法伐採が続くなら、インドネシア「合法材」販売にもケチが付き、輸出停止にもなりかねないから。加えて2007年にパリで温暖化防止締結国会議も開催され、「森林保全」PRして何としても成功を図りたいという側面があった。だがマレーシアは国際的に違法材停止に向き始めたのに、依然として違法材対策を推進しようとしなかった。特にサラワク州は、1967年からの「国境間の自由貿易協定がある」として、自州利益のために動こうとしなかった。

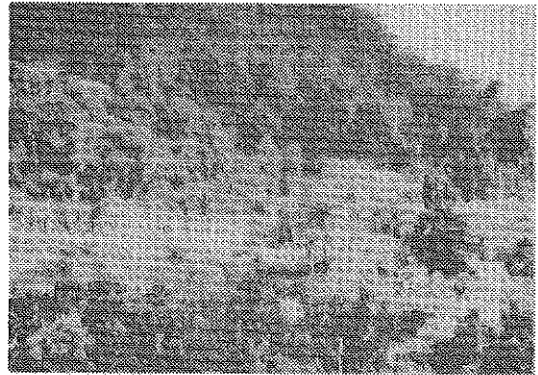
西カリマンタンのグヌン・パルン国立公園内では警察、サリブミ・クスマ社(アラス・クスマ・グループ)、ケタパン地区の地元有力者等がグルになって違法伐採の限りを尽くしていた。2007年夏、ジャカルタ政府の指導で警察責任者も変わり、違法伐採が停止した。そしてこの伐採を取り仕切るアラス・クスマグループの責任者が同年10月に違法伐採・森林法違反の容疑で逮捕された(ネット You Tube で判明)。

2008年3月、ケタパンーポンティ・アナックーサラワク州セマタンと運ぶ海上ルートで初めて大掛かりな違法材摘発の逮捕が行われた。

カバン林業大臣は2008年4月9日、ラジオ・オーストラリアのインタビューで話した。

「インドネシア政府は違法材停止に向け努力をしている。マレーシアにこの密輸材をブロック

#### サリブミ・クスマ社の G パルン国立公園違法伐採



してほしいと、再度要望する。

マレーシアを通して、中国、ベトナム、アジア各国にインドネシアの森林の72%が既に失われた。インドネシア政府は3.2億ドルの損失をしている。カリマンタン、スマトラ島とマレーシア間では、木材マフィアが違法材を運び出すネットワークを作り、森林犯罪を起こしている。

林業省は関税局、警察、林業関係者に密輸を根絶するよう呼びかけている。市場の要求がある限り、少ないが密輸が続いている。マレーシア政府はもっと対策を講じるべきである」と。

それに対し同年4月10日、マレーシアのピーター・チン・プランテーション産業・商品相は、「サラワク州へ取引は、製造物等も含め1967年の国境貿易協定など2国間協定で、記録し規制している。合法とするインドネシア産の木材は税関審査した上取り扱っている。サラワク州の税関で許可の問題があるなら、まずインドネシア当事者が合法性のあるかを書類を確認すべきだ。去年はインドネシア産15万㎡が記録されているが、サラワクの生産量の2%に満たない。今もマレーシアは合法材の扱いに努力している」と。書類審査だけの姿勢が問題だ!





# NGOsの働きで変わるラミン等輸入統計品目の識別番号

「ラミン材の動き」



新聞からの木の豆情報

2004年

知らぬ間 乱伐に加担

・読売新聞2004/11/11

日本は年間約1億立方メートルの木材を使用し、その8割は外材であるという世界でも有数の木材輸入国である。難用材全体の世界貿易では、丸太換算すると日本が25%(1999年)を占め、最も多いとされる。日本の消費者は知らないうちに海外での乱伐に手を貸しているということにもなる。インドネシア産のラミン材は、「そりが少ない。加工しやすい。安い。」という理由から、日曜大工用の丸棒、額縁ほうきの柄、手すりなど身近な商品に多用されている。主産地はインドネシアとマレーシア。1970年代から年間計150万立方メートル以上が伐採されていたが、再生しにくく、2000年の生産量は両国とも約13万立方メートルに激減した。インドネシアの林業省によると、輸出木材の半分は違法伐採で、国立公園内でも堂々とおこなわれているという。日本の税関ではラミンの識別番号がなく、他の南洋材と一緒に「合板」等に含まれ、チェックは難しい。食品のように消費者が追跡調査をするのも困難であり、輸入業者が企業の社会責任として自主的に合法的な木材以外を輸入しないようにし、消費者から評価される企業を目指していくべきかもしれない。

## ラミンキャンペーンで変化↓ ラミン輸入時の識別コード(HSコード)

\*熱帯産木材 ~2007年改正

4407.290 その他の熱帯木材(ラミン、ジェルトン、メルバウ等) → 4407.291 ラミンのもの  
 (※4407 平削丸はぎしたもの、厚さ6mm) [4407.299 その他のもの]  
 (環材) をこぼれるものと、カンナかけ、やすりかけ又は縦つぎしたもの)を  
 かを問わない

4412.99 合板その他のもの → 4412.94 ブロックボード、ラミネートボード、パツェンボード  
 (※4412 合板、パーティクルボード)を 4412.99 その他のもの  
 (合板) 類する積層木材

—資料「2007年 輸入統計品目表改正」より

税関等に2005年から申し入れる。

~その他ニュース~ Telapak と情報交換と~

★ 2001, 2002年にかけインドネシア西カリマンタンのポントヤック市で約160社がラミン採りも今は2-5社に落ちた。すごい減少だ。

★ シンガポールのラミン輸入企業(2008年夏)

80社以上ラミンを扱うシンガポール企業は、「違法と判明」、「ラミン材高騰で停止」となり、現在7社(Equatour Pte社, General Lumber Products社, Expand社等)となる。Expand社は、スラバ島のメダから、イクアトル社はどうもスラバ島のホルバイルからのようだ。いずれにせよ、著しく減少した。

## ミリ・新たな1世紀の幕開け

佐久間 香子 (北大・院生)

### ● 年明け

新年明けましておめでとうございます。2009年も徒然なるままに思うところを書き連ねてまいります。どうぞよろしくお付き合い下さい。

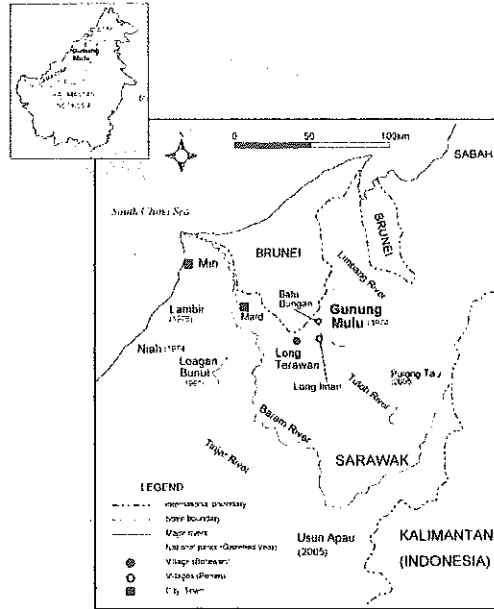
さて、皆さまはこのお正月どのようにすごされたのでしょうか？私は3年ぶりに実家でのおんびり新年を迎えました。ぼけ～っと寝正月を満喫しながら、ふと去年までのお正月を思い起こしてみました。

修士課程に入学し、生まれて初めて北海道で生活し始めた年のことです。生まれ育った京都盆地は夏になるとボルネオも目じゃないくらいに蒸し暑いところだからか、サラワクの気候にもさして動じることはありませんでした。しかし、北海道の真冬となると話は別です。

### ● サラワクへの脱出計画

12月には最高気温が氷点下という、寒がりの私には過酷過ぎる環境から逃げ出すべく、「調査」と銘打ってサラワクに逃げ込み、雪が解けるまで帰国するつもりはありませんでした。助成金の申請書に添付した調査計画書には、この時期に調査する意義みたいなことをもってもらしく書いた記憶がありますが、正直に申しますと、当時の私には調査計画なんてあってないようなものでして、ただただ寒さから逃れたい一心だったのです。

運よく申請が通ってサラワク州でのリサーチ・カウンターパート(サラワク大学)もみつき、かなり浮き足立っていた私を待っていたのは、サラワク大学での研究発表でした…。発表なんて唐突に言われても何の準備もしていなかったのですが、断るわけにはいかない



ので、「これら事前調査を行い、その結果を含めて発表するつもりなので、発表時期を帰国直前(3月)にして欲しい」などと、これまたもっともらしいことを言うてどうにか時間稼ぎに成功しました。あとはもう熱帯を満喫するのみです。

### ● 熱帯のクリスマス

その年のクリスマスと新年、私はサラワク大学の先生とご家族・友人と一緒に、サラワク北部の南シナ海に面した州都クチンに次ぐサラワク第2の都市・ミリ市(Miri)でお祝いしておりました(上の地図を参照してください)。

読者の中には、イスラーム教国のマレーシアでクリスマス祝うことを疑問に感じた方もいらっしゃるかもしれません。でも、サラワク州におけるマレー人(マレー語を母語とするイスラーム教徒)は人口の約22%に過ぎず、それはイバン人(約30%)華人(約26%)より少なく、キリスト教や中国仏教を信仰する人口のほうがはるかに多いのです。

また地域別に見ると、統計上マレー人、イバ

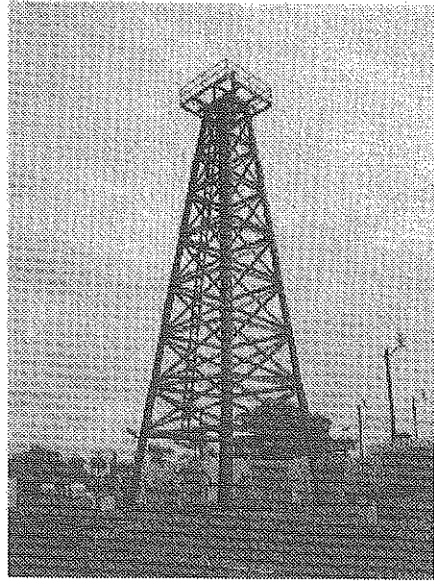
ン人、ピラユー人、ムラナウ人、華人を除いた非マレー系先住民 (non-Bumiputera) の割合が人口の約 9%と州内で最も高いのがミリ (クチンは約 0.6%) なのです。逆にミリのマレー人人口は約 19% (クチンは約 35%) にとどまっています。こうしたデータも、この地域の 'イスラーム色' の薄さを物語っていますね (以上のデータは "Yearbook of Statistics Sarawak 2007" より筆者が算出したもの)。

そんなわけで、ミリのクリスマスではそれぞれの家庭がご馳走を用意してオープンハウスにして来客を待ち構えたり、ご近所や友人・知人を訪ねてまわったりして賑やかに過ごします (もちろん、そうでない人びともたくさんいます)。

### ● 新興開発都市の 100 年

ミリ市は同時に、グヌン・ムル国立公園やランピル・ヒルズ国立公園、パリオ (クラビット・ハイランド) というそこそこ有名な観光地への玄関口でもあるため、こんにちサラワク州内で州政府が最も力を入れて観光開発を進めている都市でもあります。ただこれはごく最近のことで、それまでミリの主要産業といえば石油でした。

今年ミリで初めて石油が発見されて 100 年目にあたります。1909 年の石油発見以来、ミリ市はオイルタウンとして発展し、1960 年代に開始された沖合の油田探査により有望な資源となりました [満鐵東亞經濟調査局 1938: 316-317]。『英領マレー』によると、「當國 [筆者注: サラワクのこと] の石油採掘が進捗を見るに至ったのは一九一四年以降のことであるが、一九二〇年より (中略) 急速に躍進し、現在では蘭領印度 [インドネシア] に次ぐ東南アジアの大石油資源となっており、イギリス東洋艦隊の重要な給油地」であり、「資本的には完全にイギリス資本の獨占下」にあったと記され



オイルタウン・ミリのシンボル (撮影: 佐久間, 2006)

ています。

しかし 1979 年以降、油田がミリより南シナ海の沖合の海底へと移行したことにより石油産業は衰退していきました。そんな折、木材でも石油でもない産業を模索していた州の思惑と合致して、観光都市への転換を図ることにしました。そして、1995 年のサラワク観光開発公社による「第 2 次観光マスタープラン」策定にともない、同年、マレーシア連邦の文化・芸術・観光省と WWF マレーシアとの協力のもと、「国家エコ・ツーリズム計画」が作成されたのです。

### ● おわりに

うまいこと冬の北海道を脱出し、サラワク大学での発表も先送りにして熱帯で浮かれていましたが、発表と帰国の日は容赦なく迫ってきました。

サラワク最後の 10 日ほどは、クチンの図書館にこもって半べそかきながら発表準備をし、なんとか無事に発表を終えたと思ったらすぐに帰国です。新千歳空港に降りたったら、あろうことか外は吹雪でしたとさ。



# Hydropower Projects in Sarawak 2008 - 2020

4

**LEGEND**

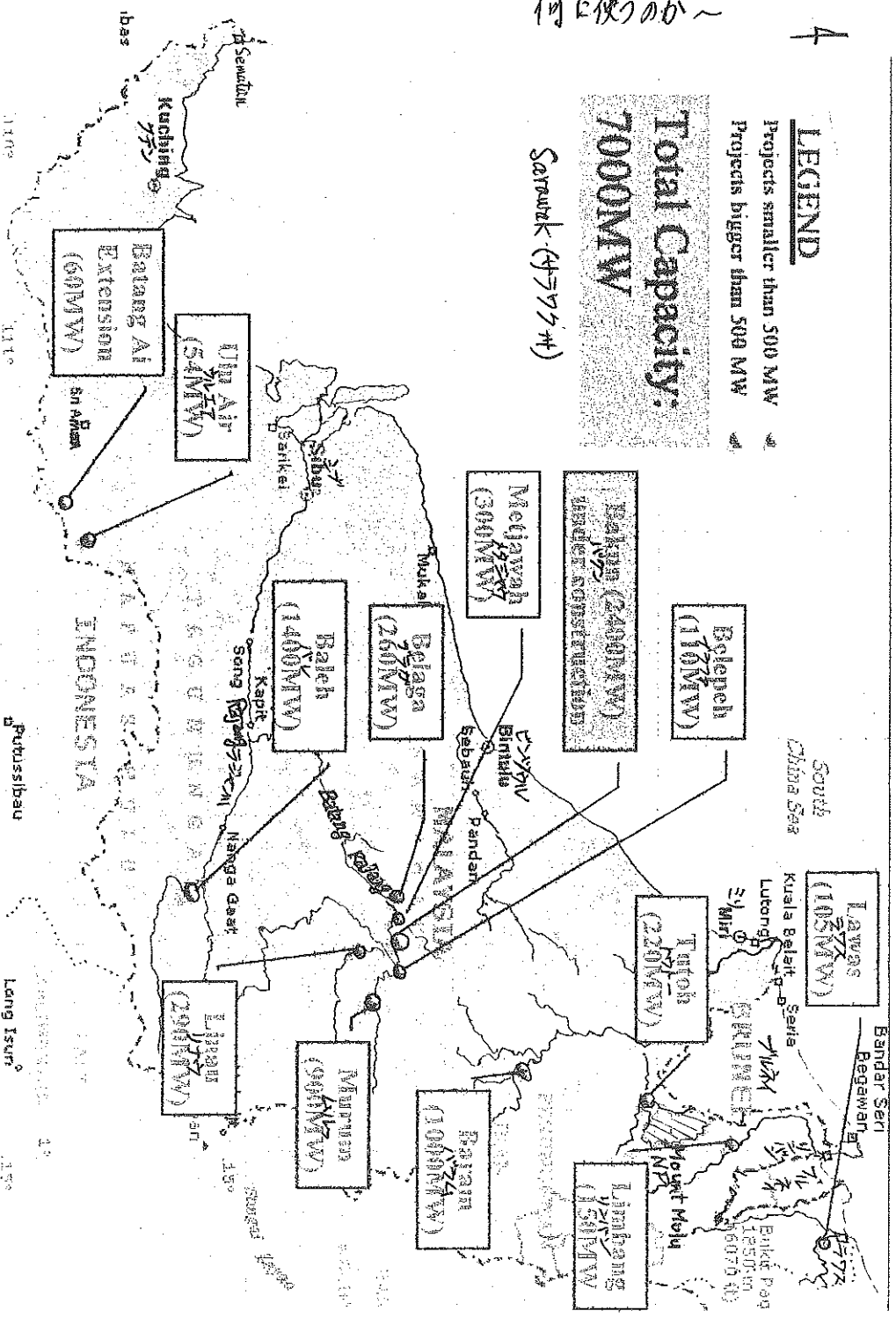
- Projects smaller than 500 MW
- Projects bigger than 500 MW

**Total Capacity:**  
7000MW

Sarawak (サラワク州)

無茶くちやなサラワク州の水力発電所計画!

~ 7000メガワットの電力を  
何に使うのか ~



Copyright © 2008 Sarawak Hydro Power Development Corporation. All rights reserved.  
Private & Confidential - Do not duplicate or distribute without written permission.

### 【サラワク州、国立公園含め13水力発電計画】

マレーシア・サラワク州政府は中国資本の水力発電所計画を2020年までに建設進めると表明、問題だ！ 予定の13発電所は北部のラウス、リンパン、トゥー、バラム、中部ラジャン川流域のムラム、ベルファ、リナウ、バクン第2ダム(現バクンダムと位置違う)、ブラガ、メジャウ、バラン、南部のウル・エア、パタニアイ第2ダム。7千メガワットに計画。住民等は森林破壊と気候変動をもたらすと批判。トゥーダムは、サラワク州が世界遺産と主張したムル国立公園を含む計画で、チー・ハウ弁護士らは「異常」と指摘。(資料:サラワク・エネルギー省, Malaysiankini 等)

### 【アフリカ数カ国、違法材停止へ動く】

9月27日ガーナ政府は、EU市場違法材流入停止方向で、政府の森林法と政府方針に沿う木材生産保証する協定をEUと10月調印表明。コンゴも現木材伐採契約の2/3を取消すと発表。同国156伐採権中46件が国内法や国際法に抵触のため。11月アフリカフォーラム参加のドイツの首相は、ナイジェリアも違法材停止を断言。(資料:ロイター、トップNews、違法伐採News等)

### 【EU、違法材流入停止等の政策表明】

10月17日、EU委員会は2つの政策を表明。1つはEU市場に流入する違法材を減少・根絶への提案。他は、熱帯林減少に取り組む提案で、2020年までに減少を今の5割に抑え、2030年までに世界の森林被覆率の減少を止める計画案だ。『違法材流入停止決議』がされると2番目になる。(資料:Illegal Logging[違法伐採]News)

### 【地球上の生物の4割が生存の危機】

世界自然保護連合(IUCN)は、「このままでは生息判明の世界の約4万4千種の38%にあたる16,928種が生存の危機」と『2008年版IUCN』にまとめた。(資料:日経新聞10月6日)

### 【パプア最高裁、サラワクRH社が違法と認定】

パプア・ニューギニアのエコ・フォレストリー・フォーラムが提訴した伐採問題につき、10月30日PNG最高裁は、同国西部のカカラ・ドーン森林区でのサラワク州リンパン・ヒジャウ(RH)社の伐採権取消しの判決を下した。訴訟費もRH社が支払う命令。同フォーラムは「RH社の伐採中止させる画期的判決で、偉大な勝利だ!」と。(資料:スクープ・ワールドより)

### 【チャールズ皇太子、熱帯林保護提案】

11月2日インドネシアを訪問の英国チャールズ皇太子は、インドネシア林業相とスマトラ島で絶滅危惧種ウリンを植林。3日、ジャカルタで皇太子は「先進国は熱帯林保護のため、年に1回途上国に保全の費用を払うべき」と。彼は「気候変動も和らげ、雨をもたらす熱帯林保護が急務。【熱帯材保証取引】の市場をも作ることが可能」と提案。(資料:ジャカルタPost、Antara通信)

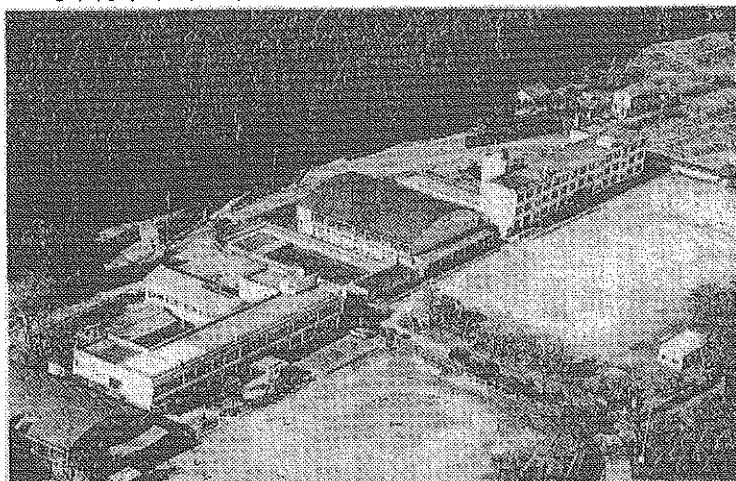
### 【ブラジル政府、大規模伐採者88名を逮捕】

11月8日ブラジル政府は、アマゾンの熱帯林破壊を大規模にしていた牧場主、農園主等88名を逮捕、告訴する。同国環境相は「彼等にこの犯罪で破壊された森の再生の植林と9900ドルの罰金を科す」と公表。(資料:AP通信)

### 【オバマ次期大統領、米国も温暖化防止へ】

オバマ次期米大統領の環境相談役は、新政権後に温暖化防止に米国も世界と同じく取り組む」と。日本、環境税を2009年より導入案も中止。温暖化防止への気候変動枠組み第14回締約国会議(COP14)ポーランドで開催も「2020年に90年比で20-40%減目標」も日本、カナダ反発で対立し、長期目標も途上国の抵抗で明確な内容を盛り込めず、「2013年以降の削減策、中長期目標」は来年の交渉となる。(資料:日経新聞、ロイター11月13日、12月11日各新聞)

朽木東小学校(左)と朽木中学校(右)＝滋賀県高島市朽木市場、本社ヘリから、荒元忠彦撮影



**学校林** 地域の学校が管理する森林。学習の一環として間伐や枝打ち、下草刈りなどをする。国土緑化推進機構の学校林現況調査によると、学校林を保有する学校は06年度に全国の小中高校の7.8% (3057校)＝グラフ参照。80年度 (5692校)を境に減り続けている一方で、東京や大阪、千葉など都市部を中心に13都府県で保有校が増えている。体験学習への期待の高まりが背景にあるようだ。

琵琶湖西岸にある滋賀県高島市の朽木地区は山深い木の里である。そこで暮らす人たちが何世代にもわたって育んできた「学校林」を切り出し、その木材を使って地元の小中学校の体育館づくりを進めている。「地域で育てた木々で孫たち次世代の体育館を」と住民参加で建設計画を練り上げ、木造構法による設計チームを公募した。そして決まったのが、伝統木造の名橋「錦帯橋」の技術を探り入れた大屋根のある体育館だ。

(論説委員・野呂雅之)

新しい体育館ができるのは高島 東小学校。それぞれの敷地には旧市立の朽木中学校と隣接する朽木 朽木村のときに建てた体育館がある

## 中学校管理のスギ 400本利用

るが、いずれも築30年を超え、老朽化が進んで建て替えることになった。少子化の影響もあって朽木中の体育館だけを新築し、小中学校の共用とする計画だ。

旧朽木村は面積の93%を森林が占める。その木をふんだんに使って、森の豊かな朽木にふさわしい体育館はできないか。そんな基本方針を掲げ、詳細な計画については校長やPTA代表、林業家ら地元31人が参加する検討委員会に委ねられた。

検討委員会は昨春に始まり、主要な構造部には学校林など地元の木を使って、地域の職人の技を生かすことが決まった。委員長を務める玉垣勝さん(72)は旧朽木村の元村長。「戦後、朽木中学の第一期の木造校舎をつくるため、土地を売って建設費を賄った。そんな生みの苦しみを経験したことで、次の世代で学校を建て替えるときのために植林をした」

そうした村有林のうち、枝打ちなどの体験学習に使うため管理を朽木中に任せただけが学校林だ。戦前に植えた木も指定され、今では朽木の学校林は4千本(6・42畝)にのぼる。

昨秋に設計を公募したところ、

全国から10チームの応募があり、現代計画研究所(本社・東京)の設計チームが提案したアーチ形の大屋根の体育館が選ばれた。完成予想図参照。選考にあたった朽木中同窓会長で林業家の松原勲さん(66)は「苦労して育てた学校林を使って新築できる。朽木の山並みにも調和したすばらしい意匠で、体が震えるほど興奮した」と言う。

新体育館は延べ床面積約1350平方メートル。山口県岩国市の錦帯橋の伝統木造構法の技術を活用した大屋根が特徴だ。「持ち送り重ね梁」という構法で、重ねた木材を長い方に少しずらすして伸ばし、それを繰り返しながら架け渡す。冬には1・7メートルの積雪があるため、その重みに耐えられるよう本体部分は鉄筋コンクリートにして、大屋根の部分を木造にする計画だ。

体育館と小学校は連絡橋で結

「学校林」活用 滋賀・朽木の試み

「ふるさとの森感じて」

び、その渡り廊下はヒノキやアスナロ、モミなど朽木産のさまざまな樹木でつくる。体育館の内部も一面を木張りにする計画で、「子どもたちがふるさとの森や木の魅力を五感で味わえるような空間をつくりたい」と現代計画研究所の今井信博社長(49)は話す。

大屋根などには1700本の木が必要で、すべて旧朽木村有林から切り出した。そのうち学校林は樹齢86年と52年のスギ4000本。市森林水産振興課の今城克啓参事(39)が山を歩いて選定した。地元の木で建てるメリットについて、今城さんは「その場所にある木材腐食菌への耐性が強く、最も耐久性がある」と言う。木の本来持つ粘りを保つよう自然乾燥させるた

め、木組みが始まるのは10年5月の予定だ。10年度中の完成を目指している。

大屋根を組むには常時20人の大工が必要で、地域の職人をどうやって参画させるのか、その方法が課題だ。検討委員会の相談役を務める金沢工業大名誉教授の鈴木有さん(70)は「朽木産の木材だけを使い、地元住民が協働参画して練り上げるという前例のない体育館の建設計画だ。大屋根のアーチ架構に地場職人の技をどう生かせるか、それが計画実現の鍵をにぎる」と指摘する。

我々が校舎

我らの木で



地元材の家に助成、35府県で

地元材の木を使って家を建てる。かつては当たり前だったこうした家づくりも、林業の衰退とともに難しくなってきた。

そのため各地の自治体では、地元材を使った家づくりを後押ししようとして、助成制度を設けている。部材となる柱の現物支給や経費の一部助

成、低利融資などだ。林野庁によると、そうした地域材補助制度は07年度には35府県、93市町村に広がっている。全国で最初に導入した秋田県は、02年度から1戸当たり秋田スギの柱90本(約23万円相当)の現物支給を始めた。3年ごとに制度を見直し、今年度からは45万円相当の梁材

などを助成している。

朽木の新体育館の建設をきっかけに、高島市も今年度から地域材の助成制度をつくり、1戸当たり60万円を上限に助成する。さらに、林業家や建築士、大工ら作り手をつなぐ「高島の木の家づくりネットワーク」を発足させた。講習を重ねて木造の技術を磨き、来年度から地域材で家を建てる住まい手を募ることにしている。

# HUTAN ACTION SCHEDULE

## 2009年度ウータン総会!

① 2/7 ② 午後1:30~4:30

③ 大阪市立中央青年センター  
Tel. 06-6943-5201

( JR環状線 森宮下車 徒歩10分 )  
地下鉄中央線

《会費、カンパを頂いた方々》(2008年7月14日~2008年12月26日)

(敬称略)

伊藤哲男 井上真 H.I. 岡本昭子 笠原英俊 栗岡理子 汐見文隆 田岡めぐみ  
津田妍子 恒成和子 中島紘 浪川光代 南俊二 畑章夫 福永一美 古川文月 宮澤朔子  
由良行基周 蓮原耕児 匿名 (ありがとうございました)

《おたよりから》

(敬称略)

☆ねばりづよい活動いつもありがとうございます。環境が新たな投資の対象となったり、ますます  
市民の活動が必要な時。よろしくお願ひします。 7/14 岡本昭子  
☆20周年おめでとうございます。ご活躍ぶりを森の通信で読ませていただくたびに、「元気やなあ」  
と山の上で感じさせられております。(以下略) 1.1月 福永一美



### ウータン・森と生活を考える会

【OFFICE】〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-34

サクラビル新館308

【関西市民連合】 筑付

Tel.06-6372-1561

【HP】www.hutang.org/ 【mail】fwpc3808@mb.infoweb.ne.jp

【一部】300円 【年会費】3000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。